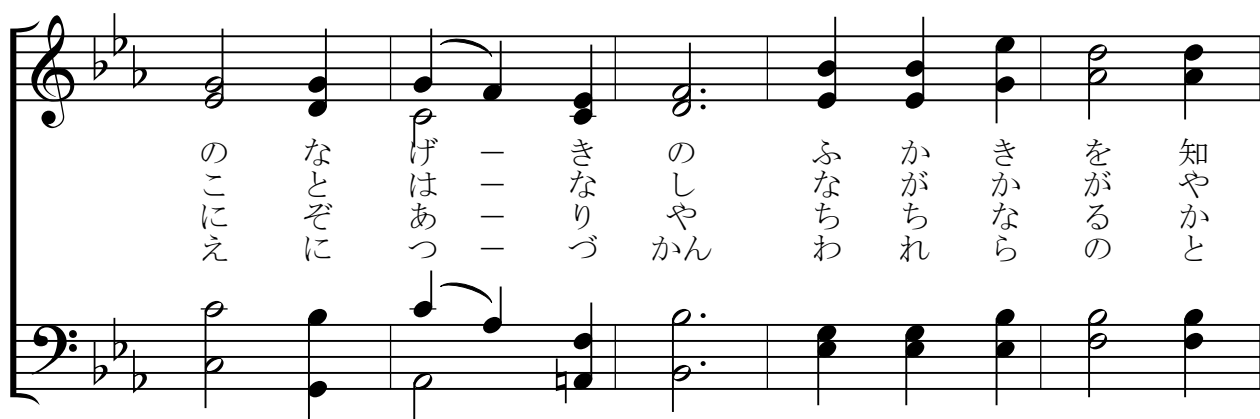


1. 2. 3. 4.
みえさと かいらも みえばよ とんキえ とよりい もなスえ ー ー ー なれ トん るの のの

えみしく いくもる えにべし んにらみ よあのを ー なりく知 ー ー ー ー れてしる をはみや

わしゆじゆ死 がくんは こふき逃に こくうげ ー にーさ ろ満しやり につのて いよい責せ だろため くこみの

ゆびとく えのおる わしもし ー ー ー れらにみ はべはは こ絶^たいと のゆずこ よるこし



見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも痛みもない。…都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。 黙示 21:3, 4, 11

5

てんじょう 天上にありて しゅく たみ 祝されし民あり
喜びに満ち とこしえに生くる。
みかみ かお 彼らは御神の み顔あおぎみん
おうごん 黄金のごとき 平和にみたされ。

6

えいえん いのち 永遠に生きたもう 命なる神よ
つか わが疲れたる 心はいかにぞ
なれをあこがるる！ われ世を忘れ
みくに わ ただ御国のみに 心をば向けん。